

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月22日現在

機関番号：32630

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520689

研究課題名（和文） 日本古代の国造制と地域社会の総合的研究
—国造制研究支援データベースの構築—

研究課題名（英文） A study of the Kuninomiya-suko-system
and the local communities in ancient Japan

研究代表者

篠川 賢 (SHINOKAWA KEN)

成城大学・文芸学部・教授

研究者番号：30149059

研究成果の概要（和文）：国造制は大和王権の地域支配制度であり、古代国家の成立過程を探る上で不可欠なテーマの一つである。本研究では、「国造関係史料集」・「国造関係文献目録」・「校訂国造本紀」の作成と、「国造制研究支援データベース」構築のためのテキストデータの作成を行った。また、国造制と地域社会に関する研究を実施した。

研究成果の概要（英文）：The Kuninomiya-suko-system is a regional governing institutions of Yamato kingship. It is one of the themes essential to explore the formation process of the ancient state. In this study, we have edited the sourcebook, the bibliography, the standard text and the database to support research on Kuninomiya-suko-system. We have conducted the research on the Kuninomiya-suko-system and the local communities in ancient Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：歴史学・日本史・古代史・データベース・国造

1. 研究開始当初の背景

国造制は、日本古代における大和王権の地域支配制度である。

大和王権は支配下に入った各地の有力豪族に対して、物資や労働力の徴発を要求する代わりに、彼らを国造に任命しその支配権を保障した。これを受けて国造は、裁判権・徴税権・行政権・祭祀権を行使し、当該地域の支配を行った。国造制は、国家と社会の結節点となった全国的な支配制度であり、日本古代国家の成立過程と支配構造を解明するために、不可欠な研究テーマである。

また、近年、豪族居館や郡家遺跡の発掘調査、木簡の出土など、考古学分野での研究成果が多数蓄積されている。これらは国造制や地域社会を考究する際に重要な手がかりとなる。こうした考古学分野の成果に対する文献史学分野からのアプローチが急務となっている。

2. 研究の目的

国造制研究の基本史料である『先代旧事本紀』巻十「国造本紀」（以下「国造本紀」）は、『古事記』や『日本書紀』にはない独自の記

述を多く含んでおり、国造制の研究における基本史料である。

しかし、そのテキストとしては、鎌田純一『先代旧事本紀の研究』校本の部（吉川弘文館、1960年）や、それをもとにした鎌田純一校注『神道大系 古典編 8 先代旧事本紀』（神道大系編纂会、1980年）など、およそ半世紀前に編纂されたものが、現在も利用されている。また、国造に関連する史料集も、佐伯有清・高嶋弘志編『国造・県主関係史料集』（近藤出版社、1982年）の刊行後、研究の個別細分化が進み、出土文字資料が増加しているが、いまだ史料集の増補や改訂はなされていない。

このような現状に対し、研究代表者（篠川）・研究分担者（大川原・鈴木）は、約10年間に亘って国造研究会を開催し、国造制や地域社会に関する研究を進めてきた。また、関係史料と文献の収集、研究史の整理、フィールドワークなどを実施し、その研究成果を発表・共有してきた。

本研究では、これらを集約させることにより、最新の研究成果を盛り込んだ新しい史料集、文献目録、テキスト、データベースの作成を行う。また、作成作業を通じて得られた新知見をもとに、国造制と地域社会に関する総合的研究および事例研究を進展させ、その成果を発表する。

3. 研究の方法

本研究は、(1)国造関係史料の収集・整理、(2)国造関係文献の収集・整理、(3)「国造本紀」の写本調査、(4)「国造関係史料集」の作成、(5)「国造関係文献目録」の作成、(6)「校訂国造本紀」の作成、(7)「国造制研究支援データベース」構築のためのテキストデータの作成、(8)国造制と地域社会に関する研究、これら8段階によって実施した。

4. 研究成果

(1)国造関係史料の収集・整理

これまでの国造制研究で主に利用されてきた『国造・県主関係史料集』と、国造研究会での研究成果（レジюме・資料等）をもとに、「国造関係史料集」に載録する史料の収集・整理を行った。

(2)国造関係文献の収集・整理

国造研究会での研究成果（レジюме・資料等）と、各種の索引・検索ツールを活用して、「国造関係文献目録」に載録する図書・論文の収集・整理を行った。

(3)「国造本紀」の写本調査

上記(2)で収集した文献と、各種の蔵書目録・索引・検索ツールを活用し、全国の研究機関で「国造本紀」の写本・版本の調査を実施し、必要に応じて紙焼きを収集した。また、これまでの国造制研究で主に利用されてきた『先代旧事本紀の研究』校本の部、『神道大系 古典編8 先代旧事本紀』の検討を行った。

(4)「国造関係史料集」の作成

上記(1)で収集・整理した史料を編集し、「国造関係史料集」を作成した。合計619件（国造制全般70件、畿内の国造68件、東海道の国造122件、東山道の国造61件、北陸道の国造39件、山陰道の国造96件、山陽道の国造47件、南海道の国造44件、西海道の国造44件、「国造本紀」以外の史料に見える国造28件）の史料を載録した。

(5)「国造関係文献目録」の作成

上記(2)で収集・整理した文献の情報を編集し、「国造関係文献目録」を作成した。合計約3,918件（国造制全般約619件、国造別約3,299件）の文献を収録した。

(6)「校訂国造本紀」の作成

上記(3)で調査を実施した計38種類の写本・版本の検討をもとに、卜部兼永本（天理大学附属天理図書館所蔵）を底本として諸本との校合を行い、「校訂国造本紀」を作成した。あわせて度会延佳『鼈頭旧事紀』の頭注も載録した。

(7)「国造制研究支援データベース」構築のためのテキストデータの作成

上記(4)～(6)で作成した「国造関係史料集」、「国造関係文献目録」、「校訂国造本紀」のデータの再編集を行い、「国造制研究支援データベース」を中心に構成するテキストデータを作成した。

(8)国造制と地域社会に関する研究

上記(1)～(7)の作業過程で得られた新知見をもとに、国造制と地域社会に関する総合的研究および事例研究を実施した。その成果として、学会発表計12件を行い、雑誌論文計34件、図書計3件を公にした。また、国造研究会の研究成果も含めて、篠川賢・大川原竜一・鈴木正信共編著『国造制の研究—史料編・論考編—』（八木書店、2013年）を上梓した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計 34 件)

1. 篠川賢、「国造」と国造制、篠川賢・大川原竜一・鈴木正信共編著『国造制の研究—史料編・論考編—』(八木書店)、査読無、2013、357-378 頁
2. 篠川賢、国造田と郡司職分田、篠川賢・大川原竜一・鈴木正信共編著『国造制の研究—史料編・論考編—』(八木書店)、査読無、2013、574-575 頁
3. 大川原竜一、国造制研究の現状と課題、篠川賢・大川原竜一・鈴木正信共編著『国造制の研究—史料編・論考編—』(八木書店)、査読無、2013、379-410 頁
4. 大川原竜一、出雲国造と杵築大社、篠川賢・大川原竜一・鈴木正信共編著『国造制の研究—史料編・論考編—』(八木書店)、査読無、2013、701-702 頁
5. 鈴木正信、「国造本紀」諸本の書誌学的検討、篠川賢・大川原竜一・鈴木正信共編著『国造制の研究—史料編・論考編—』(八木書店)、査読無、2013、437-466 頁
6. 鈴木正信、「史料」としての「国造本紀」、篠川賢・大川原竜一・鈴木正信共編著『国造制の研究—史料編・論考編—』(八木書店)、査読無、2013、467-468 頁
7. 鈴木正信、神部直氏の系譜とその形成—『粟鹿大明神元記』堅系図の検討を通じて—、日本歴史、査読有、780 号、2013、1-18 頁
8. 鈴木正信、大神氏の分布とその背景、彦根論叢、査読無、395 号、2013、153-175 頁
9. 鈴木正信、三輪山祭祀の構造と展開—大神氏との関係を中心として—、早稲田大学日本古典籍研究所年報、査読無、6 号、2013、1-17 頁
10. 鈴木正信、豪族からみた若狭国と三方郡のはじまり、美浜町歴史シンポジウム記録集、査読無、7 号、2013、55-66 頁
11. 篠川賢、「連」のカバネと「連公」の呼称、日本常民文化紀要、査読無、29 号、2012、71-98 頁
12. 鈴木正信、五～八世紀における大神氏の氏族的展開、滋賀大学経済学部研究年報、査読無、19 号、2012、118-142 頁
13. 鈴木正信、大三輪神の神格とその重層性、彦根論叢、査読無、393 号、2012、78-93 頁
14. 鈴木正信、『粟鹿大明神元記』の写本系統、河野貴美子・王勇編『東アジアの漢籍遺産』(勉誠出版)、査読無、2012、169-198 頁
15. 鈴木正信、甲斐国造の系譜に関する一考察、彦根論叢、査読無、391 号、2012、184-193 頁
16. 鈴木正信、書評：松原弘宣著『古代四国の諸様相』、日本歴史、査読無、765 号、2012、95-97 頁
17. 篠川賢、日本書紀の杜撰、日本歴史、査読無、763 号、2011、33-35 頁
18. 篠川賢、東国国司詔の史料性について、新川登亀男・早川万年編『史料としての日本書紀』(勉誠出版)、査読無、2011、117-137 頁
19. 篠川賢、藤原不比等一天智天皇御落胤説の真相—、新人物往来社編集部編『古代豪族のルーツと末裔たち』(新人物往来社)、査読無、2011、300-314 頁
20. 篠川賢、藤原不比等一天智天皇御落胤説の真相—、歴史読本、査読無、2011 年 8 月号、2011、192-197 頁
21. 鈴木正信、日本古代氏族系譜の分析視角、彦根論叢、査読無、390 号、2011、252-265 頁
22. 鈴木正信、紀伊国造の成立と展開、滋賀大学経済学部研究年報、査読無、18 号、2011、87-110 頁
23. 鈴木正信、紀氏、新人物往来社編集部編『古代豪族のルーツと末裔たち』(新人物往来社)、査読無、2011、115-127 頁
24. 鈴木正信、『紀伊国造次第』の成立とその背景、彦根論叢、査読無、389 号、2011、40-53 頁
25. 鈴木正信、古代豪族のルーツと末裔 紀氏、歴史読本、査読無、2011 年 8 月号、2011、102-107 頁
26. 鈴木正信、四国学とは何か—地域学と e ラーニングの融合—、情報知識学会研究報告、査読無、21-1 号、2011、303-308 頁
27. 鈴木正信、甲斐国造の「氏姓」に関する再検討、日本史研究、査読有、584 号、2011、30-44 頁
28. 鈴木正信、日本古代の国造制研究とデータベース、滋賀大学経済学部附属資料館 SAM、査読無、34 号、2011、2-3 頁
29. 鈴木正信、『紀伊国造次第』の書写方針と注記、香川県立文書館紀要、査読無、15 号、2011、25-34 頁
30. 篠川賢、「磐井の乱」とその後、小島孝夫『地域社会・地方文化再編の実態』(成城大学民俗学研究所グローバル研究センター)、査読無、2010、8-30 頁

31. 篠川賢、書評：中村友一著『日本古代の氏姓制』、史学雑誌、査読無、119-11号、2010、1888-1895頁
32. 篠川賢、日本列島の西と東、荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係 1 東アジア世界の成立』（吉川弘文館）、査読無、2010、270-285頁
33. 篠川賢、武智麻呂伝の史料性について、篠川賢・増尾伸一郎編『藤氏家伝を読む』（吉川弘文館）、査読無、2010、82-104頁
34. 大川原竜一、利波氏をめぐる二つの史料、富山史壇、査読有、163号、2010、1-23頁

〔学会発表〕（計12件）

1. 鈴木正信、『粟鹿大明神元記』と白村江の戦い、早稲田大学日本古典籍研究所国際シンポジウム「文化の衝突と融合」、早稲田大学、2013.02.02
2. 鈴木正信、豪族からみた若狭国と三方郡のはじまり、福井県美浜町歴史フォーラム、美浜市生涯学習センターなびあす、2012.11.24
3. 鈴木正信、五～八世紀における大神氏の氏族的展開、国造研究会、成城大学、2012.10.27
4. 鈴木正信、校訂国造本紀と国造関係史料集について、国造研究会、成城大学、2012.10.27
5. 鈴木正信、古代豪族の家系図を読み解く、岐阜市立図書館講座、ドリームシアター岐阜、2012.09.11
6. 鈴木正信、日本古代氏族系譜の形成とその契機、あたらしい古代史の会、成城大学、2011.11.26
7. 鈴木正信、『粟鹿大神元記』の史料的性格、早稲田大学日本古典籍研究所国際シンポジウム「東アジアの漢籍遺産」、中国・杭州華北飯店、2011.07.29
8. 大川原竜一、出雲国造と古代王権、国史学会、国学院大学、2011.06.12
9. 鈴木正信、古代氏族系譜研究の現状と課題、国造研究会、成城大学、2011.06.11
10. 鈴木正信、四国学とは何かー地域学とeラーニングの融合ー、情報知識学会シンポジウム、香川大学、2011.05.28
11. 鈴木正信、古代本巢の豪族と地域社会、岐阜県本巢市歴史文化探訪セミナー、本巢市教育委員会、2011.05.14
12. 大川原竜一、国造と「領域」と首長、国造研究会、成城大学、2011.04.30

〔図書〕（計3件）

1. 篠川賢・大川原竜一・鈴木正信共編著、八木書店、国造制の研究、2013、計706頁
2. 鈴木正信著、東京堂出版、日本古代氏族系譜の基礎的研究、2012、計525頁
3. 篠川賢・増尾伸一郎編、吉川弘文館、藤氏家伝を読む、2010、計270頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

篠川 賢 (SHINOKAWA KEN)
成城大学・文芸学部・教授
研究者番号：30149059

(2)研究分担者

大川原 竜一 (OKAWARA RYUICHI)
明治大学・研究知財戦略機構・客員研究員
研究者番号：20530067

鈴木 正信 (SUZUKI MASANOBU)
滋賀大学・経済学部・特任准教授
研究者番号：30538335